

大学との連携事業についての報告

—教師の養成・採用・研修の一体的な充実の一助に—

茨城県教育研修センター 主任指導主事 下川 淳、指導主事 興野聖人

Report on the cooperation project with the university

To help with the integrated enhancement of teacher training, recruitment and training

SHIMOKAWA Jun, KYONO Masato

【要旨】

近年、全国的に教員の採用倍率が低下している。そのような状況の中、茨城県においても、大学生の教員志願者増に向けた取組の充実は喫緊の課題である。

そこで、茨城県教育研修センターでは、県内の大学及び大学院（茨城大学教職大学院、常磐大学、茨城キリスト教大学）と連携し、大学の早い段階から、教員の魅力ややりがいについて理解し、教育現場で実際に必要なスキルや考え方に触れることを通して教員になることへの意欲を高められるよう取り組んでいる。

キーワード：大学との連携、養成・採用・研修の一体化

1 はじめに

様々な団体・機関が児童生徒を対象に実施しているなりたい職業ランキングを見ると、社会の状況に伴い変化がある中でも、教員という職業は、毎年上位にランキングされている。教員は、児童や生徒、学生の成長過程に携われる等、働きがいのある職業であるとともに、産休や育休も比較的取りやすく、福利厚生も充実していることから魅力的な職業の一つと考えられている。

しかしながら、令和4年9月9日に文部科学省から公表された「令和4年度（令和3年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況」では、小学校教員の競争率（採用倍率）が2.5倍と、過去最低を更新し、全体の競争率も3.7倍となり、1991年度（平成3年度）と同率で過去最低であった。

文部科学省はこの調査結果について、全体の傾向を「平成12年度（2000年度）以降の採用倍率低下については、大量退職等にもなう採用者数の増加と既存の受験者数の減少によるところが大きい」と分析し、中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方特別部会」において、教師の採用の改善策についても議論を深めているところとしている。

それを受けて、中央教育審議会では、令和4年12月19日の第132回総会において『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）」を取りまとめている。その中では、教育委員会と大学の連携強化の必要性が示されており、大学が教育委員会と積極的に連携・協働し、養成・採用・研修等の一体的な充実に取り組んでいくことが求められている。

茨城県教育研修センター（以下「研修センター」という。）は、茨城大学教職大学院、常磐大学、茨城キリスト教大学と連携協定を結んでいる。これらの連携が、学生の資質・能力の向上や教員の研修の充実につながることで、中教審答申の求める教師の養成・採用・研修等の一体的な充実の一助になると考え、本年度までの取組を報告する。

2 大学との連携にあたっての考え方

連携にあたっては、大学側による研修センターでの教員研修や研究への協力に加えて、研修センターがその専門性を活かして、指導主事等が大学での授業の講師を務めるなど、教員を目指す学生への支援を行う。

- **連携の目的について**

研修センターと大学が相互に連携協力することにより、茨城県の高度な教育実践を担う教員を育成することを目的とする。

- **連携に当たっての考え方について**

- ・双方の専門性や資源についての理解・周知を図りながら連携事業の推進を図る。
- ・相互に均衡のとれた連携協力を原則として、双方の専門性や資源の活用を図る。
- ・連携期間については、有効期間満了の日の30日前までに、いずれからも何らかの申し入れがないときは、更に1年間更新するものとし、以後も同様とする。

- **研修センターから連携大学への主な依頼事業**

- ・研修講座への講師派遣
- ・連携事業の開催
- ・研究事業への指導助言等

- **連携大学から研修センターへの主な依頼事業**

- ・大学での講師として指導主事等の派遣
- ・研修センター講座への学生の参加

3 大学との連携の実際

(1) 連携協議会及び情報交換会

毎年2回、茨城大学教職大学院、常磐大学、茨城キリスト教大学のそれぞれと連携協議会及び情報交換会を実施している。大学の担当者と研修センターの担当者が、今年度

の連携事業の確認や今後の方向性、実施しての改善点等について協議を行っている。今年度は、常磐大学と茨城キリスト教大学との連携協議会において、初任者研修の様子を参観していただき、大学との授業のつながりや卒業後の成長の様子を見ていただいた。

(2) 大学教員、大学院生による講座協力

ア 茨城大学教職大学院生による「いばらき輝く教師塾Ⅰ期」への協力

本センターでは、大学1、2年生を対象に、近隣の学校を訪問して教育活動に参加するなどして、教職について実践的、協働的に学ぶ、いばらき輝く教師塾Ⅰ期を実施している。このセミナーの運営には、研修センター指導主事等に茨城大学教職大学院生が協力してあたることとなっている。

令和元年（平成31年）までは、実践発表や野外活動、ナイトセミナーの協力者として大学院生が参加した。令和2年度は、コロナ禍の関係もあり、実施はなかった。令和3年度からは、コロナ禍の状況を見ながら、実践発表のみ協力を得ている。実践発表者の人数は、教師塾Ⅰ期第1日A班に、ストレートマスター1名、現職派遣教員1名、B班に、ストレートマスター1名、現職派遣教員1名、計4名である。ストレートマスターは、主に大学生活や採用試験に向けて、学生へのアドバイス等の内容である。現職派遣教員は、学校現場の具体的な取組、様子等実践的な内容である。両発表とも学生には好評であった。

イ 研修センターの研修支援事業への茨城大学教職大学院教員の参画

茨城大学教職大学院教員は、研修センターが実施する研修支援事業の「学校運営」分野において、研修センター指導主事等と一緒に訪問し、講義及び指導・助言を行う。実施状況は以下のとおりである。

年度	件数	対 象
平成29年度		
平成30年度	7	小中学校、教育委員会
令和元年度	6	小中学校、教育委員会
令和2年度	6	小中学校、教育委員会
令和3年度	1	小学校
令和4年度	3	小学校、教育委員会

内容は主に、カリキュラム・マネジメント、コミュニティスクールに関するものが多い。専門的な立場から具体的な実践について助言をいただけることや謝礼や派遣文書の作成等もないことにより、学校としても負担が少なくメリットの大きい事業となっている。

ウ 研修センター長期研修と茨城大学教職大学院コラボ授業

研修センター長期研修（3か月、6か月）においては、各自の研究以外にも、所長、次長等の講話や長期研修生同士で高め合うゼミナールを実施している。その中で、令

和4年度は、研修センター長期研修と茨城大学教職大学院のコラボ授業を実施した。授業前に、長期研修生と院生で交流の場を設定し、その後、茨城大学教職大学院加藤教授によるカリキュラム・マネジメントについての講義・演習を3時間実施した。普段学ぶ機会のない専門的な内容であり、好評であった。

【受講者アンケート（長期研修生）から】

（「1」よくあてはまる 「2」 だいたいあてはまる）

観 点	回答数	「1」	「2」	合計(%)
教職大学院とのコラボ授業は、教員としての資質・能力の向上に役立つものだった。	19	53.0	47.0	100
教職大学院生との交流は、有意義であった。	19	58.0	42.0	100

受講者の感想には、「茨城大学加藤先生に講義いただけたことは、カリキュラム・マネジメントについて学び、学校運営について考える貴重な機会となりました。」「教職大学院生が日頃どのような学びをしているかを知れたことは同じ研修生としてよい刺激になり、大学院への興味・関心が一層高まりました。」等の記述があり、講義はもとより、交流も有意義なものであった。

エ 研修センター講座への茨城大学教職大学院生の参加

平成29年から、研修センターが開設する講座のうち、中堅教員としてのキャリアステージに対応する講座に2年次大学院生が参加するなどして、研修センター指導主事とともに講座を運営している。

令和元年度までは新任教務主任研修講座（小・中）等で、大学院生が司会や協議に入る等の参加をしていた。参加する講座については、大学院での学びを活かせる講座等、検討が必要である。

コロナ禍のため令和2年～4年度は実施できていない。現場の教員に院生がついて支援するメリットは大きく、大学院のスキルを活かせる場でもある。次年度以降の派遣の再開を検討する予定である。

(3) 大学の授業への研修センター職員の派遣

ア 茨城大学教職大学院

教職大学院の授業の講師として、研修センター指導主事・主査を派遣している。今年度は、年間10科目、22回の授業に22名の指導主事・主査を派遣した。学校で起こり得る具体的な演習を中心に、講義・演習を行っている。

日時 令和4年6月27日、7月4日 12:40～14:10

内容 カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ

・特別活動（講義・演習：模擬学級会等）

日時 令和4年12月9日、12月16日 10:20～11:50

内容 教育相談の課題と支援

・「いじめとその対処」についての講義・演習

他 8 科目

イ 常磐大学

常磐大学へは、令和元年度から「教育者への道」という企画の中で、特別活動の指導の実際等の授業に、研修センター指導主事・主査を派遣している。今年度は、3科目、3回の授業に4名の指導主事・主査を派遣した。次年度は、ICTの活用に関する授業への派遣も検討している。

日時 令和4年7月20日 14:40～16:10

内容 「教育者への道」教育学科2年次必修授業

・特別活動（講義・演習：模擬学級会等）

日時 令和4年10月11日 10:30～11:10

内容 教職実践演習（中・高）：教育学科4年次対象

・学級経営案作成（講義）

日時 令和4年11月22日 13:30～14:30

内容 教職実践演習（中・高）：教育学科4年次対象

・情報教育の推進を踏まえた「校内研修計画作成」（講義）

ウ 茨城キリスト教大学

今年度新たな連携事業として、「2022年度 茨城県教育研修センター・茨城キリスト教大学連携講座：教員養成に係る実践的な学び」を開始した。研修センターの指導主事が講師として、講義・演習を行った。

日程 令和5年2月22日 12:40～17:30

内容 1時間目：12:40～14:10「児童生徒理解」

児童生徒の心身の発達に関する知識を身に付け、それらを生かした児童生徒を理解するための方法について知る。例：面談の仕方、話の聴き方

2時間目：14:20～15:50「特別な支援の実際」

通常の学級における特別な教育的支援の必要な児童生徒に対する授業づくり、学級経営の在り方

3時間目：16:00～17:30「道徳」

道徳科の授業における指導方法の工夫について、講義・演習を通して実践的な理解を促す。

第2回は、次年度7月頃を予定している。

エ 茨城大学

茨城大学とは、連携協定は結んでいないが、依頼に応じて講師を派遣している。令和4年度は、教育学部以外の学生を対象とした教育実習の事前指導の授業に、講師を派遣した。90分×3回の集中講義の中で、教科（今回は社会科）における教材研究や授業構想、模擬授業等、授業を進める上での具体的な内容について講義・演習を行った。教育学部ではないため触れる機会の少ない学校現場を想定した具体的な演習を多く行うことで、教育実習への不安軽減につながったと考える。

(4) 研修センター事業への学生の参加呼びかけ

ア いばらき輝く教師塾Ⅰ期、Ⅱ期

研修センターでは、近隣の学校を訪問して教育活動に参加するなど、教職について実践的、協働的に学ぶ、いばらき輝く教師塾Ⅰ期（大学１、２年生対象）、Ⅱ期（大学３、４年生対象）を実施している。茨城大学、常磐大学、茨城キリスト教大学では、毎年多くの学生が、教師塾に参加している。教師塾は、全国の大学に募集をかけているが、連携を結んでいる大学には、大学を訪問し、学生に説明をする機会を設けている。

【令和４年度参加者数】

大学名	Ⅰ期	Ⅱ期	計（人）
茨城大学	91	98	189
常磐大学	38	45	83
茨城キリスト教大学	18	63	81

受講者の感想に、「実際の教育現場を見て、生徒たちの学ぶ意欲や態度、教員の指導方法や生徒への接し方を学ぶことができました。また、若手教員との交流では、実際の現場のことについて詳しく知ることができました。これらの経験を教育実習や教員採用試験、実際に教員になった時に活かして、自分の理想とする教師像になれよう頑張っていきたいです。」（Ⅰ期）、「同じ夢に向かう仲間と過ごす時間はとても貴重だったと感じます。教員の卵としても成長できたと感じますし、１人の人間としても成長できたと感じています。１人で悩まず、色んな方々の意見を聞いて参考にし、一緒に考えていくことが『学校はチーム』なのだなと感じました。これからも夢に向かって頑張ります。ありがとうございました。」（Ⅱ期）等の記述が多数あったことから、教員への意欲が高まったと考えられる。

イ 「２日で学べる！ 授業で生かせるＩＣＴプログラム」研修

令和４年４月、常磐大学との情報交換会の中で、ＩＣＴに関する研修に大学生を参加させてほしいという要望が大学側からあり、「２日で学べる！ 授業で生かせるＩＣＴプログラム」研修を企画し、参加者を募った。研修センターの「はじめてのＩＣＴを活用した授業づくり」講座とコラボし、現職教員と一緒に研修を受ける機会とした。２日間のプログラムを３回準備し、茨城大学、常磐大学、茨城キリスト教大学に呼びかけ、参加者を募った。定員は各回１０名以下であったが、有意義な研修となった。

【受講者アンケートから】

（「１」よくあてはまる 「２」だいたいあてはまる）

観 点	回答数	「１」	「２」	合計（％）
授業におけるＩＣＴ活用の基本的な考え方について理解することができた。	14	78.6	21.4	100
今回の研修は、あなたにとって満足できる研修でしたか。	14	92.9	7.1	100

受講者の感想には、「こんなにたくさんの、実際に現場にでている先生方と共に研修を受けることは初めてだったので、自分が申し込んでよかったのか不安でいっぱいでした。しかし、目の前で先生方の模擬授業や実践例をみることができたり、アドバイスを頂くことができたりと、とても貴重な経験をさせて頂くことができ、申し込んで良かったと思っています。来月からの実習も、楽しみになってきたし、今回の研修を受けて、自信がついたように思います。」等の記述が多数あったことから、初めての企画だったが有意義であったと考える。

ウ 大学教員も参加できる企画の呼びかけ

研修センター主催の学生や教員が参加できる講座については、連携している大学に優先的に案内をしている。今年度は、以下の研修の案内をした。

- ・「スクールリーダーを育てるハイブリッド型 オンライン・ラーニング」
- ・「2日で学べる！ 授業で生かせるICTプログラム」
- ・「SDGs オンライン・スタディー」

大学からは、学生のみならず教員の参加も見られた。

(5) 共同事業

ア 三大学（茨城大学、常磐大学、茨城キリスト教大学）と研修センターとのコラボセミナー

令和2年度から三大学（茨城大学、茨城キリスト教大学、常磐大学）と研修センターとのコラボ企画として教員養成オンラインセミナーを実施している。これは、教員を目指す学生のために、教員という職業について若手教員等と直接話をする機会を設定することにより、各大学の学生が教員の魅力について理解を深めるとともに、教職への意欲を高める機会とすることをねらいとしている。

今年度は、「教員の魅力発見！ICT時代の新しい学校のかたち」オンラインセミナーと題し、公認会計士による「教員&保育士 人生が充実するマネープランニング」の事前動画配信やつくば市の事例を紹介していただいた講話「ICTを活かした魅力ある教育」、若手教員との交流ができるバラエティトーク「教員の魅力発見！」という内容であった。毎年、各大学と複数回打合せを行い計画、準備をしている。当日も大学教員が各ブレイクアウトルームのファシリテーターになるなど、研修センター職員と協働で運営している。

【受講者アンケートから】

（「1」よくあてはまる 「2」だいたいあてはまる）

観 点	回答数	「1」	「2」	合計(%)
教員になりたいという気持ちが高まりましたか。	191	55.5	39.8	95.3
茨城県の教員になることについて興味がありますか。	191	54.5	32.5	87.0

受講者の感想には、「小学校教員という将来の大きな目標をかなえるべく、日々大学での勉学に励んでいます、今回のような現職の先生方を始めとした先生方に教育業界のリアルな声や現状について触れる機会は多くないためとても参考になりました。」とあり、有意義な交流の場となった。また、若手教員からも、「教員を目指していた学生の頃を思い出し、初心に返ることができた。これからの初任者に対して見本となるよう、今後さらに自らを高めていけるよう努力していきたい。」等の感想があった。セミナーを通して、若手教員のやる気も高めることができた。

若手教員、指導主事、大学職員、学生がそれぞれの立場で教員の魅力を考えることのできた有意義なセミナーとなった。

イ 教職大学院の成果発表

研修センターと教職大学院の共同事業として、教職大学院生の研究発表会を行っている。平成 29 年度から研修センターの研究発表会の中で行っていたが、現在は、研修センターの発表会が 8 月開催になったため、教職大学院の発表会は 2 月に、指導主事・主査を対象に行うこととなった。教職大学院の発表は、マネジメント関連の研究が多く、研修センター職員及び教職員の資質向上に資するものとなっている。

次年度は、研修センターの長期研修生の参観も視野に入れ、発表会の体制を見直していく。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・連携協議会や情報交換会を重ねることで、大学の担当者と研修センターの担当者が、連携事業の確認や今後の方向性、実施しての課題等をあげ改善したことが、学生の資質・能力の向上や教員の研修の充実につながっていると考える。
- ・各事業に参加した学生の事後のアンケート結果や感想から学生の教職についての興味・関心が高まったと考える。
- ・令和 4 年度は、新たに長期研修生とのコラボ研修や授業で活かせる ICT プログラム、茨城キリスト教大学への出前授業等、新規の事業を企画した。ニーズに合った企画をすぐに立ち上げることで、学生の満足度も高く、資質向上につながったと考える。
- ・共同事業である教員養成オンラインセミナーでは、大学教員と研修センター職員が企画から準備、運営まで協働して実施したことで、研修センターの負担軽減になり、それぞれのよさを活かした運営につながった。

(2) 課題

- ・教師塾（Ⅰ・Ⅱ期）については、大学の集中講義や教育実習との兼ね合いもあるため、より大学生が参加しやすいよう前年度中に事前の日程調整が必要である。
- ・教員養成オンラインセミナーにおいて、県内大学生はもちろんのこと、本県出身の県外大学生及び全国の大学生にも広く呼びかけ受講者を増やし、茨城県の教員の魅力

を知ってもらえる機会としたい。

- ・教育学部以外の学部にも、入学当初の早い段階で教員の魅力を伝える機会を得られるようにする必要がある。
- ・事業内容は、研修センターと大学相互のニーズを踏まえ研修を企画している。そのため単発の研修も考えられる。各研修を継続するかどうか協議をし、継続するメリットのある研修を精選する必要がある。

5 おわりに

研修センターと県内三大学との連携が進み、学生の教職への意欲の高揚など、一定の成果が見られているところである。しかしながら、教員志願者の大幅増にはつながっていない。世間一般で教員のマイナス面が取り上げられている昨今において、教員を目指す学生を増やすには、大学との連携を深め、養成・採用・研修の一体化を図っていくことが必要である。これまでの取組について検証し、さらに工夫を重ねていきたい。

【参考資料】

- ・中央審議会答申「『令和の日本型学校教育』を担う 教師の養成・採用・研修等の在り方について ～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を 有する質の高い教職員集団の形成～」(令和4年12月19日)
- ・令和4年度(令和3年度実施)公立学校教員採用選考試験の実施状況について(令和4年9月9日公表)文部科学省

資料 各大学・大学院との連携のあゆみ

1 茨城大学教職大学院

平成 29 年 3 月 10 日	茨城大学大学院教育学研究科と茨城県教育研修センターの協定締結 茨城大学大学院教育学研究科長 生越 達 茨城県教育研修センター所長 安藤 昌俊
平成 29 年 5 月 12 月	研修センターの講座運営に教職大学院生を依頼 研修支援の学校運営分野に教職大学院の教員を講師として依頼する。 教職大学院の授業に講師として研修センター指導主事を派遣する。 研修センター研究発表会に、教職大学院生の成果発表を追加する。
平成 30 年 5 月 9 月 12 月	研修センターの講座運営に教職大学院生を依頼 研修支援の学校運営分野に教職大学院の教員を講師として依頼する。 教職大学院の授業に講師として研修センター指導主事を派遣する。 いばらき輝く教師塾Ⅰ期で教職大学院生（ストレートマスター）が実践発表を行う。 研修センター研究発表会で、教職大学院生の成果発表を行う。
令和元年(平成31年) 5 月 9 月 12 月	研修センターの講座運営に教職大学院生を依頼 研修支援の学校運営分野に教職大学院の教員を講師として依頼する。 教職大学院の授業に講師として研修センター指導主事を派遣する。 いばらき輝く教師塾Ⅰ期で教職大学院生（ストレートマスター）が実践発表を行う。 研修センター研究発表会で、教職大学院生の成果発表を行う。
令和 2 年 5 月 9 月 2 月	研修センターの講座運営に教職大学院生を依頼(コロナ禍により中止) 校内研修支援の学校運営分野に教職大学院の教員を講師として依頼する。 教職大学院の授業に講師として研修センター指導主事を派遣する。 いばらき輝く教師塾Ⅰ期における教職大学院生（ストレートマスター）の実践発表は、コロナ禍により中止。 研修センター研究発表会で、教職大学院生の成果発表を行う。(ライブ配信で実施)
令和 3 年 5 月	研修センターの講座運営に教職大学院生を依頼(コロナ禍により中止) 研修支援の学校運営分野に教職大学院の教員を講師として依頼する。

	8 月	教職大学院の授業に講師として研修センター指導主事を派遣する。 いばらき輝く教師塾Ⅰ期における教職大学院生（ストレートマスター）の実践発表は、コロナ禍により中止。
	1 月	研修センター研究発表会で、教職大学院生の成果発表を行う。（動画配信）
令和4年	5 月	研修支援の学校運営分野に教職大学院の教員を講師として依頼する。
	8 月	教職大学院の授業に講師として研修センター指導主事を派遣する いばらき輝く教師塾Ⅰ期で教職大学院生（ストレートマスター、現職教員）4人が実践発表を行う。（2名×2日）
	11 月	研修センター長期研修と茨城大学教職大学院コラボ授業「カリキュラム・マネジメント」の実施
	2 月	教職大学院生の成果発表会を研修センターで行う。

※毎年、年度末または、年度初めに教職大学院教授と研修センター所長、教職教育課大学との連携担当で、連携事業内容の打合せを行っている。

2 常磐大学

令和元年7月17日	常磐大学の授業に講師を派遣する。教育者への道（科目：特別活動の指導の実際）
令和2年3月10日	常磐大学と茨城県教育研修センターとの協定締結 常磐大学 学長 富田 敬子 茨城県教育研修センター 所長 安藤 昌俊
7月～	常磐大学の授業に講師を派遣する。教育者への道（科目：特別活動の指導の実際、道徳 等）
令和3年 7月～	常磐大学の授業に講師として研修センター指導主事を派遣する。 「教育者への道」
令和4年 7月～	常磐大学の授業に講師として研修センター指導主事を派遣する。 「教育者への道」
8月	現職教員と学べる「2日で学べる！授業で生かせるICTプログラム」講座への参加

3 茨城キリスト教大学

令和3年3月23日	茨城キリスト教大学と茨城県教育研修センターとの協定締結 茨城キリスト教大学 学長 上野 尚美 茨城県教育研修センター 所長 猪瀬 宝裕
令和5年2月22日	出前授業「2022年度 研修センター・茨城キリスト教大学連携講座：教員養成に係る実践的な学び」